

2011年10月25日

アラビア石油株式会社

「インドネシア国における温室効果ガス削減 CCS プロジェクトの案件組成調査」について

アラビア石油株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：穂谷野一敏、以下「アラビア石油」）は丸紅株式会社および株式会社三菱総合研究所と共同で、独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「平成 23 年度地球温暖化対策普及等推進事業（第二次）」に「インドネシア国における温室効果ガス削減 CCS プロジェクトの案件組成調査」を提案しておりましたが、今般、同提案が同機構より採択されました。本調査事業は昨年度実施した経済産業省による事業を継続するものです。

NEDO の「地球温暖化対策技術普及等推進事業」は、我が国の優れた低炭素技術・製品等の海外における有効性を実証し得る具体的な排出削減プロジェクトの発掘及びその組成を効率的かつ効果的に実施するために必要な、低炭素技術の普及・移転のための事業性評価、排出削減効果の評価手法等の確立、プロジェクトの実施に係るファイナンスその他の制度・環境整備方策等に関する調査を実施するものです。

本調査事業は、アラビア石油が保有する技術による、東南アジアにおける天然ガス生産時に発生する CO<sub>2</sub> に対する初めての CCS (Carbon Capture & Storage、CO<sub>2</sub> 回収及び貯留) プロジェクトであり、現在大気中に放出されている CO<sub>2</sub> を回収、老朽油田に圧入することにより CO<sub>2</sub> の地下貯留を図るものです。

本調査事業では、昨年度の経済産業省による公募事業を継続発展させる形で、CO<sub>2</sub> 地下貯留の詳細検討、関連設備の概念設計、経済財務分析及び二国間クレジットの制度設計を行うと共に、他 CO<sub>2</sub> ソースの調査等、新たな検討を進めます。

三社は、本調査事業を通じて、二国間クレジット創出を通じた温室効果ガス削減に貢献することに加え、インドネシアにおける地球温暖化問題への対応と経済成長の両立を引き続き目指してまいります。

以上